東京農業大学「食と農」の博物館
Food and Agriculture Museum Tokyo University of Agriculture

展示案内　No.76
Exhibition Guide　No.76

会期　平成29年8月30日（水）～10月15日（日）

ごあいさつ

特別展示「鶏 ―クラシックブリードの世界―」の開催にあたって

この度は「鶏 ―クラシックブリードの世界―」展をご高覧いただきまして誠にありがとうございます。皆様が今お読みいただいているこのご挨拶文をものしていたのは、５月も半ばのそろそろ雨の季節を迎えようとしていた頃でした。平成29年度も既に３分の１がとうに過ぎたこの時期では、今年の干支を気にするようなこともなくなっていました。しかし言うまでもなく平成29年は「酉年」です。その干支に因んだ当展示をご覧いただきながら、近年私たちの身近で目にすることがなくなったニワトリたちに思いをはせていただければと思います。

ニワトリは我々ヒトと実に長い間生活を共にしてきました。その起源は東南アジアに分布する４種のヤケイ（野鶏：セキショクヤケイ・ハイイロヤケイ・セイロンヤケイ・アオエリヤケイ）のうち、最も広く、かつ人の生活圏に近く分布するセキショクヤケイとする説が有力ですが、その他のヤケイも関わっているとする多元説もあり、定まっておりません。家禽化の時期についてもヒツジやヤギ・ブタと同じ紀元前8,000年頃とするものもあれば、ウマと同じ前4,000年頃とするものもあります。しかし東南アジアから中国南部で家禽化され、そこから西方へ伝播し世界中に広がり現在に至ったようです。

現代では養鶏の近代化が著しく、卵肉ともに生産性の高い品種が実用鶏として開発・作出され利用されています。私たちが子供のころは普通のニワトリ農家が鶏舎を営んでいたものですが、今の養鶏は実用性の高い品種を用いオートメーション管理のもと企業化され、大量消費社会のための生産を可能にしています。毎日の食卓を見るとニワトリはなくてはならない食料資源であることが容易にわかります。特に子供たちの多くは唐揚げやフライドチキンが大好物でしょう。

このように大量消費をかなえてくれるシステムが構築されたその陰で、世界各地で人とニワトリの長い共生の中で作出されてきた、それぞれの地域の歴史や文化を体現する多くの貴重な品種が、生産性のみの尺度で評価されることにより飼育されなくなり、消えていくのではと心配されています。

本展示では、希少性の高い古典的な品種を中心に紹介し、遺伝資源としてだけでなく、それぞれの地域が育んだ文化を保存し後世に伝えていく貴重な存在であることをご紹介いたします。

都心部でも私たちの生活のすぐそばに鶏舎が見られた時代、あの独特の「匂い」を覚えておられる方もまだ多いことと思います。身近にニワトリを見なくなり、あの鶏舎が放つ匂いから解放された私たちは、元には戻りたくないと思っています。しかしそれは我々ヒトが、豊かさや利便性を得るために何かを犠牲にしなければ得られないという心を忘れ、言い換えればプラス面だけを欲しがるようになってしまう危うさを示しているように思えるのです。実際、美味しいチキンを食べるには匂いのもとである鶏舎が必要なのです。この展示から、生産性や利便性を追求してきた現代文明の忘れ物を見つけていただければ幸いです。

最後になりましたが、JSACを始め本特別展示の開催にあたり、ご協力いただきました関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

東京農業大学「食と農」の博物館 館長
江口 文陽

解　説

ニワトリの成立には主に赤色野鶏の１亜種、あるいはいくつかの亜種が深く関わっており、東南アジアから南アジアにかけての地域で家禽化され、世界各地に広がって行ったと考えられています。少なくとも今から4,000年以上前に家禽化された形跡がそれらの地域で認められています。野鶏がどのような目的により家禽化されたのかについては、食用だけでなく時計の役割（時を告げる）や闘鶏、宗教、信仰、占い、装飾品としての利用等の説があげられていますが、現在では世界中に300以上もの品種があるといわれています。アンドリュー・ロウラー・著『ニワトリ　人類を変えた大いなる鳥』（熊井ひろ美・訳2016.11.17合同出版）によると、現在、この鳥は地球上に200億を超える羽数がいるとのことです。では200億のニワトリを構成している品種はいくつかというと、その多くがほんの数品種のニワトリであるといっても過言ではありません。養鶏業は高度に集約化されたシステムで成り立っており、鶏の育種会社は数品種のニワトリから多くの系統を作りだし、その交配により極めて生産性の高い一代限りの雑種である銘柄鶏を作出し販売しています。このニワトリを養鶏企業や農家が購入して卵や肉の生産を行っているのです。

ニワトリの品種は世界各地で地鶏として飼育されていたものであったり、それらを交配して品種として作出されたものであったりします。現在でも、世界各地で粗放的な飼育方法で飼育されているニワトリが数多くいて、その中には地域の生活や歴史や文化の中から生まれた特有の品種が見られますが、人々のライフスタイルの変化により消えていく運命かもしれません。

世界各地で人間と共に長い年月を暮らし、それぞれの地域の歴史や文化の中で作られてきた多くの家畜や家禽の品種が、生産性のみの尺度で評価されることにより飼育されなくなり、消えゆくことが危惧されています。そこで、現在ではほとんど目にすることができなくなった、希少性の高いクラシックブリード（古典的なニワトリの品種）を中心に紹介し、これらの美しいニワトリが、それぞれの地域がはぐくんだ文化を保存し後世に伝えていく存在でもあることを知っていただきたいと思います。

本展示を開催するにあたり、多くの標本を貸与してくださった、JSACに御礼申し上げます。

東京農業大学 農学部バイオセラピー学科 教授
小川　博

ニワトリの祖先として考えられているのは東南アジアから南アジア一帯に分布している野鶏で、セキショクヤケイ（*Gallus gallus*）、ハイイロヤケイ（*Gallus sonneratti*）、セイロンヤケイ（*Gallus lafayetti*）およびアオエリヤケイ（*Gallus varius*）の４種が存在し、これらはニワトリと同じGallus属に属しています。野鶏がどのようにニワトリの成立に関わったかという点について、かつては赤色野鶏のみが現在のニワトリの直接の祖先であるとする単元説と、複数の野鶏が関わっているとする多元説がありましたが、現在では上記のとおり主にセキショクヤケイの１亜種、あるいはいくつかの亜種が深く関わっていると考えられています。ただ、ニワトリの中にはハイイロヤケイ由来の遺伝子を持つものがいるとの報告もあり、その起源はいまだに明らかではありません。

ニワトリは世界中に広がり、各地でその地方に特有のいわば地鶏が成立していったと考えられますが、品種を原産地により分類すると、アジア種、地中海沿岸種、ヨーロッパ種、イギリス種、アメリカ種、日本種などに分けることができます。本特別展示では日本種を除いた古典的なニワトリの品種に限定して展示いたしました。日本種については「食と農」の博物館２階でいくつか常設展示しております。併せてご覧いただきたいと思います。

それでは今回展示されている品種について、次ページ以降で簡単に解説していきましょう。

≪Red Jungle Fowlの雄≫

○セキショクヤケイ　Red Jungle Fowl

セキショクヤケイはカシミール地方、インドの東南部、インドシナ半島、マレー半島、スマトラ島、ジャワ島、スラウェシ島およびフィリピン群島に広く分布しています。生息地、体型、耳朶色、羽装等によって５亜種に分類されていますが、亜種の認識に関する統一見解は得られていません。

○ハイイロヤケイ　Gray Jungle Fowl

ハイイロヤケイはインドの中央から南部にかけて生息し、標高1500m位までの傾斜のある山地の竹藪や森林に生息しています。雄は小さな鋸歯上の切れ目を持つ丸い冠と２枚の丸い肉髯を持ち、顔面と喉が赤く裸出しています。

≪Gray Jungle Fowlの雄≫

≪Ceylon Jungle Fowlの雄≫

○セイロンヤケイ　Ceylon Jungle Fowl

セイロンヤケイはスリランカの標高０ｍの平地から1800m位の山地までに生息しています。雄は縁が小さな鋸歯状で、中央に特徴的な黄色い部分を持つ赤い楕円形の冠を有しています。

○アオエリヤケイ　Green Jungle Fowl

アオエリヤケイはジャワ島、マドゥラ島、カンゲアン島、バウェアン島、バリ島、ロンボク島、スンバ島、スンバワ島、フローレス島、アロール島のスンダ列島に生息しています。雄は滑らかな外縁の丸い冠を有し、冠の基部は緑で紫色がかった縁取りがあります。

≪Green Jungle Fowlの雄≫

アジア種

≪Light Columbian Brahmaの雄≫

○ブラマ　Brahma

インド原産の肉用鶏で、イギリスで改良されたものは鑑賞用、アメリカで改良されたものは肉用として利用されました。ライト、ダーク、ホワイト、ゴールド、バフ（注１）、コロンビアン（注２）等の内種があります。本展示では、コロンビアン内種について、アメリカで維持されている系統とハンガリーで維持されている系統を展示しています。

○コーチン　Cochin

中国原産の品種で、アメリカとイギリス両国で改良されました。バフ、パートリッジ（注３）、ブラック、ホワイトなどの内種があります。本展示ではハンガリーで維持されているバフと米国で維持されているパートリッジの内種を展示しています。脚毛が多いのが特徴です。バフ・コーチンと尾張地方の地鶏を交配して作出された名古屋コーチンは脚毛があることから敬遠されましたが、現在は脚毛が除かれ名古屋種として肉用や卵用のブランド鶏として人気があります。

≪Partridge Cochinの雄≫

≪Black Langshanの雄≫

○ランシャン　Langshan

中国北部原産の肉用種で、狼山（ランシャン）地方から英国に輸出されたのが名前の由来といわれています。羽装にはブラック、ホワイト、バフなどの内種がありますが、本展示では米国で維持されているブラック内種を展示しています。

○アシール　Asil

インド原産の古い品種で闘鶏用に飼われていました。イギリスに輸入され、改良されました。インディアン・ゲーム（コーニッシュ）の作出に用いられました。

≪Asilの雄≫

≪Sumatoraの雄≫

○スマトラ　Sumatra

　インドネシア原産の品種で闘鶏用に用いられてきましたが、産卵性にも優れています。ブラック内種のみが知られています。

○ペキン・バンタム　Pekin Bantam

　中国原産の品種で、コーチン・バンタムとも呼ばれます。イギリス人が母国に持ち帰って愛玩用として飼育しました。本展示ではバフ色内種を展示していますが、ブラック、ホワイト、ブルーほか多くの内種があります。就巣性が強く仮親に適しています。

≪Pekin Bantamの雄≫

　今回、展示はありませんが、アジア種には上記の品種の他にコーニッシュの改良に使われた、闘鶏用に改良されたマレー（Malay）や羽毛が糸状のシルキー（Silky）などがあります。日本鶏のシャモ（軍鶏）はマレー系で烏骨鶏はまさにシルキーです。

（注１）　バフ buff　全体が淡黄褐色
（注２）　コロンビアン columbian　頸部に黒色羽毛を持った種
（注３）　パートリッジ partridge　全体が黄褐色でウズラ様の羽装

地中海沿岸種

≪Brown Leghornの雄≫

○レグホーン　Leghorn

　イタリアで古くから飼育される卵用種で、イタリアのレグホーン港からアメリカへと輸出されたことが名前の由来です。ホワイト、ブラウン、ブラック、バフ、シルバーなど12の内種がいます。本展示ではブラウン・レグホーンを展示しています。ホワイト・レグホーンは近代的な採卵養鶏で白色卵を産むニワトリとして有名です。

○スパニッシュ　Spanish

　スペイン原産の古い卵用の品種で白色卵を生みます。その起源には不明な点が多い鶏ですが、ミノルカと近縁であるといわれています。体型はレグホーンに似ています。

≪White Faced Black Spanishの雄≫

○ミノルカ　Minorca

　スペイン原産の古い品種で、ミノルカ島などからイギリスに輸入されて改良されました。大きな白色卵を産みます。本展示ではブラック・ミノルカを展示していますが、他にもホワイト、ブルーなどの内種があります。

≪Black Minolcaの雄≫

○アンダルシアン　Andalusian

　スペイン原産と考えられていますが、イギリスで改良されました。ミノルカやスパニッシュと近縁の大きな白い卵を産む鶏です。本展示はブルーの羽装ですが、ブルーの羽装同士を交配しても生まれる個体はすべてがブルーとなるわけではなく、ブラック、スプラッシュなども産まれます。

≪Blue Andalusianの雄≫

　今回、展示はありませんが、地中海沿岸種には上記の品種の他に、レグホーンに体型が似ており近縁と考えられているアンコナAnconaなどの品種があります。

ヨーロッパ種

≪Silver Spangled Hamburghの雄≫

○ハンブルグ　Hamburgh

　オランダ原産の古い卵用品種で、ゴールドスパングルド（注４）、ゴールドペンシルド（注５）、シルバーペンシルドなどの内種があります。展示標本はシルバースパングルド・ハンブルグです。

○ポーランド　Poland

　オランダ原産の愛玩用品種で、毛冠を有するのが特徴です。展示標本は、白い毛冠に黒色の羽装のホワイトクレステッド（注６）・ブラック・ポーランドですが、ホワイト、ゴールド、シルバー、バフなどの内種があります。

≪White Crested Black Polandの雌雄≫

　今回、展示はありませんが、欧州種には上記の品種の他に、ベルギー原産の古い卵用種のカンピーヌCampine、ウーダンHoudanなどの品種があります。

（注４）　スパングルド spangled　全体に点斑模様が現れる
（注５）　ペンシルド penciled　全体に細線の束状模様が現れる
（注６）　ホワイトクレステッド white crested　白い冠毛を持った

イギリス種

≪Black Orpingtonの雄≫

○オーピントン　Orpington

　イギリスで作出された肉用鶏で、ブラックやバフなどの内種があります。本展示ではハンガリーで維持されているブラックとバフの内種を展示しています。また、オーストラロープAustralorpは、ブラック・オーピントンがオーストラリアにおいて改良された品種で、オーストラリアン・ブラック・オーピントンが正式名称です。

○コーニッシュ　Cornish

イギリスでレッド・アシール、ブラックブレステッド・レッド・オールドイングリッシュ・ゲーム、マレーからインディアン・ゲームが作出され、アメリカでは1893年にコーニッシュとして公認されました。その後、我が国のシャモ（軍鶏）などが交配され、レッド・コーニッシュやホワイト・コーニッシュなどの内種が作出されました。さらにさまざまな改良が加えられ、現在では肉用鶏の雄系統として用いられています。ブロイラー（肉用若鶏）は、ホワイト・コーニッシュの雄をホワイト・プリマスロックの雌に交配して産まれた雛を３ヶ月未満の飼育（通常７～８週）の後に出荷したものです。

≪Dark Cornishの雄≫

○モダン・ゲーム　Modern Game

マレーを基に作出された愛玩用種で、オールドイングリッシュ・ゲームが起源ですが、同じくらいの歴史を有しています。ブラック・レッド、ブルー・レッド、ブラウン・レッド、ダック・ウィングスなどの内種があります。

≪Modern Gameの雄≫

○ゲーム・バンタム　Game Bantam

オールド・イングリッシュ・ゲーム・バンタムが正式名称で、ブラックレッド、イエロー・ダックウィング、シルバー・ダックウィング、ブラウンレッド、スパングルドなどの内種があります。元々は闘鶏用の鶏ですが、現在は愛玩用に飼育されています。

≪Game Bantamの雄≫

○サセックス　Sussex

もともとは肉用の非常に古い品種ですが、産卵性もよいことから卵用鶏の交雑に用いられたこともあります。本展示品はライト・サセックスですが、そのほかにブラウン、バフ、レッド、シルバー、ホワイト、スパングルドなどの内種があります。

≪Light Sussexの雄≫

今回、展示はありませんが、イギリス種には上記の品種のほか、ドーキング（Dorking）などの品種があります。

アメリカ種

≪Barred Plymouth Rockの雄≫

○プリマスロック　Plymouth Rock

　ドミニクを基に、ブラマ、ブラック・ジャワなどを交配して作出された卵肉兼用種です。バード（注７）・プリマスロックが最も古い内種で、これから突然変異で生じたホワイト・プリマスロックは、ブロイラー生産のための雌親として利用されています。本展示では、アメリカで維持されている系統のホワイトとバードの内種を展示しています。バード・プリマスロックは、今でも日本各地の銘柄肉用鶏作出のための雌親として利用されています。

○ロード・アイランド・レッド　Rhode Island Red

　アメリカの在来種（アジア系の鶏か？）。バフ・コーチン、レッド・マレー、ブラウン・レグホーン、ワイアンドットなどの交雑から作出されたとされています。褐色や桜色の有色の卵殻を持つ採卵用の実用鶏は、多くが本種を基に作出されています。バード・プリマスロックと同様に、日本各地の地鶏の雄と交配し、銘柄肉用鶏作出のための雌親として利用されています。

≪Rhode Island Redの雄≫

≪New Hampshireの雄≫

○ニューハンプシャー　New Hampshire

　ロード・アイランド・レッドを改良して作出された比較的新しい卵肉兼用種です。羽装はロード・アイランド・レッドより淡い赤褐色をしています。

○ワイアンドット　Wyandotte

シルバー・シーブライト・バンタムとコーチンの雑種にシルバースパングルド・ハンブルグとバフ・コーチンの雑種を交配したものに、更にシルバースパングルド・ハンブルグとダーク・ブラマの雑種を交配してシルバーレイスド・ワイアンドットが作出されました。これにブラウン・レグホーンとバフ・コーチンの雑種を交配してゴールドレイスド・ワイアンドットが作出されました。卵肉兼用種で、アメリカでは18もの内種が公認されています。

≪Blue laced Red Wyandotteの雄≫

≪Black Jersey Giantの雄≫

○ジャージージャイアント　Jersey Giant

ブラック・ジャワ、ダーク・ブラマ、ブラック・ランシャン、インディアン・ゲーム（ダーク・コーニッシュ）の交配によって作出された世界で最も大型の肉用品種で、ブラック、ホワイト、ブルーの内種があります。

○ドミニク　Dominique

最も古いアメリカ特有の品種とされていますが、品種の成立についてはよくわかっていません。南イングランドからニューイングランドへ持ち込まれたのではないかと考えられています。肉兼用種でプリマスロックの成立にも関わっています。

≪Dominiqueの雌雄≫

（注７）　バード barred　全体に横斑模様が現れる

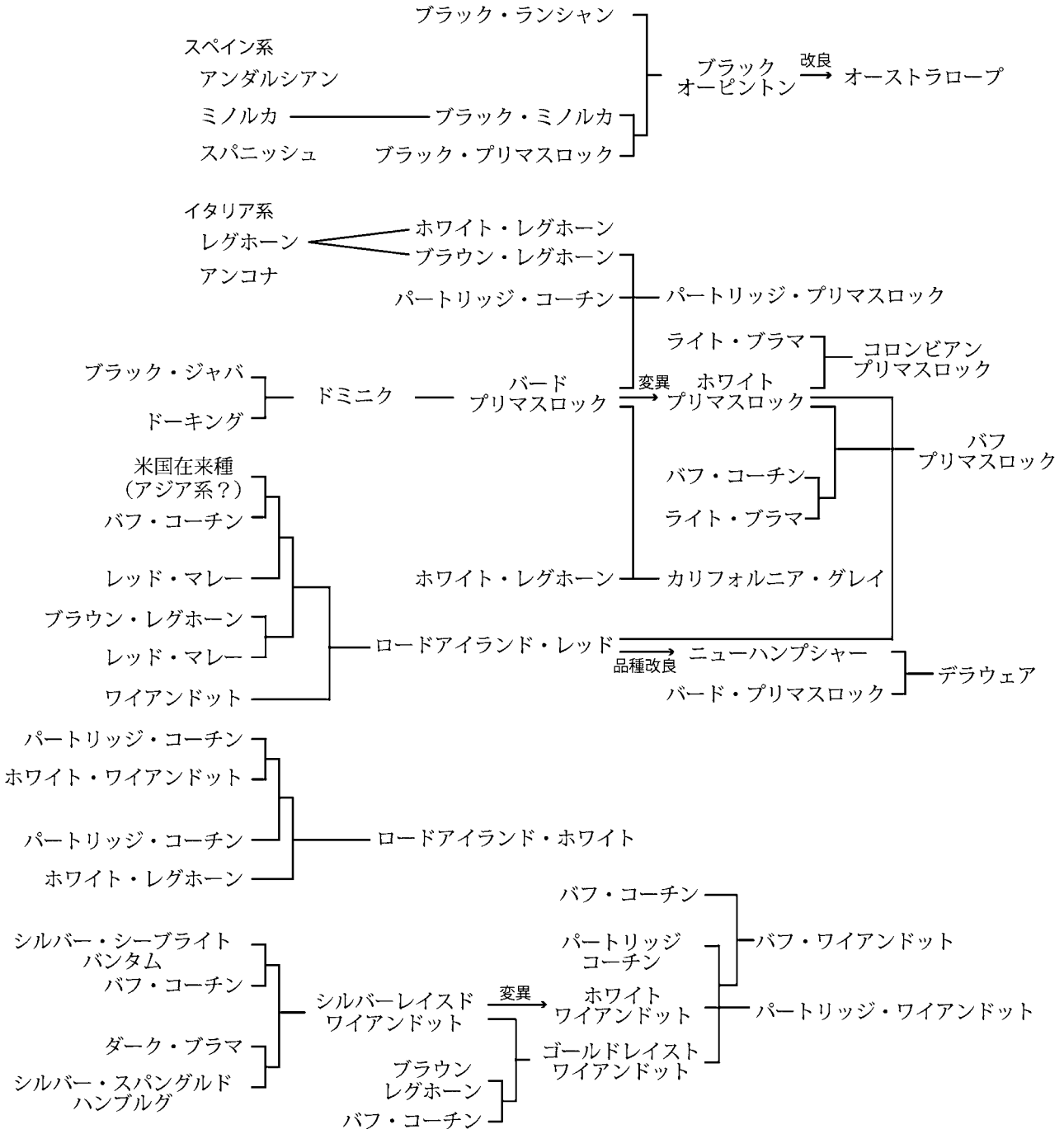
展示標本の一覧

展示品種名と性別		品種の原産国
野　鶏		
Red Jungle Fowl *	雌雄	東南アジア一帯
Gray Jungle Fowl *	雌雄	インド
Ceylon Jungle Fowl *	雌雄	スリランカ
Green Jungle Fowl	雌雄	インドネシア
アジア種		
Light Columbian Brahma	雌雄	インド
Light Columbian Brahma	雌雄	インド
Yellow Cochin	雌雄	中国
Partridge Cochin	雌雄	中国
Black Langshan	雌雄	中国
Asil	雌雄	インド
Sumatra	雌雄	インドネシア
Pekin Bantam *	雌雄	中国
地中海沿岸種		
Brown Leghorn	雌雄	イタリア
White Faced Black Spanish	雌雄	スペイン
Black Minorca *	雌雄	スペイン
Blue Andalusian *	雄	スペイン
ヨーロッパ種		
Silver Spangled Hamburgh *	雌雄	オランダ
White Crested Black Poland	雌雄	オランダ
Silver Lased Poland *	雌雄	オランダ
イギリス種		
Yellow Orpington	雌雄	イギリス
Black Orpington	雌雄	イギリス
Australorp（Australian Black Orpington）	雌雄	イギリス
Dark Cornish（Indian Game）	雌雄	イギリス
Red Cornish	雌雄	イギリス
White Cornish	雌雄	イギリス
Modern Game	雌雄	イギリス
Light Sussex *	雌雄	イギリス
Game Bantam *	雌雄	イギリス
アメリカ種		
Barred Plymouth Rock	雌雄	アメリカ
White Plymouth Rock	雌雄	アメリカ
White Plymouth Rock	雌雄	アメリカ
Rhode Island Red	雄	アメリカ
Rhode Island Red	雌雄	アメリカ
New Hampshire	雌雄	アメリカ
Blue Laced Red Wyandotte	雌雄	アメリカ
Black Jersey Giant	雌雄	アメリカ
White Jersey Giant	雌雄	アメリカ
Dominique	雌雄	アメリカ

※　*のついた標本は「食と農」の博物館所蔵
※　その他の標本はJSAC所蔵

主要な鶏の品種系統図

参考：『養鶏マニュアル』岡本正幹 編 1966年版 養賢堂



【参考文献】

『養鶏マニュアル』　岡本正幹 編　養賢堂（1966年）

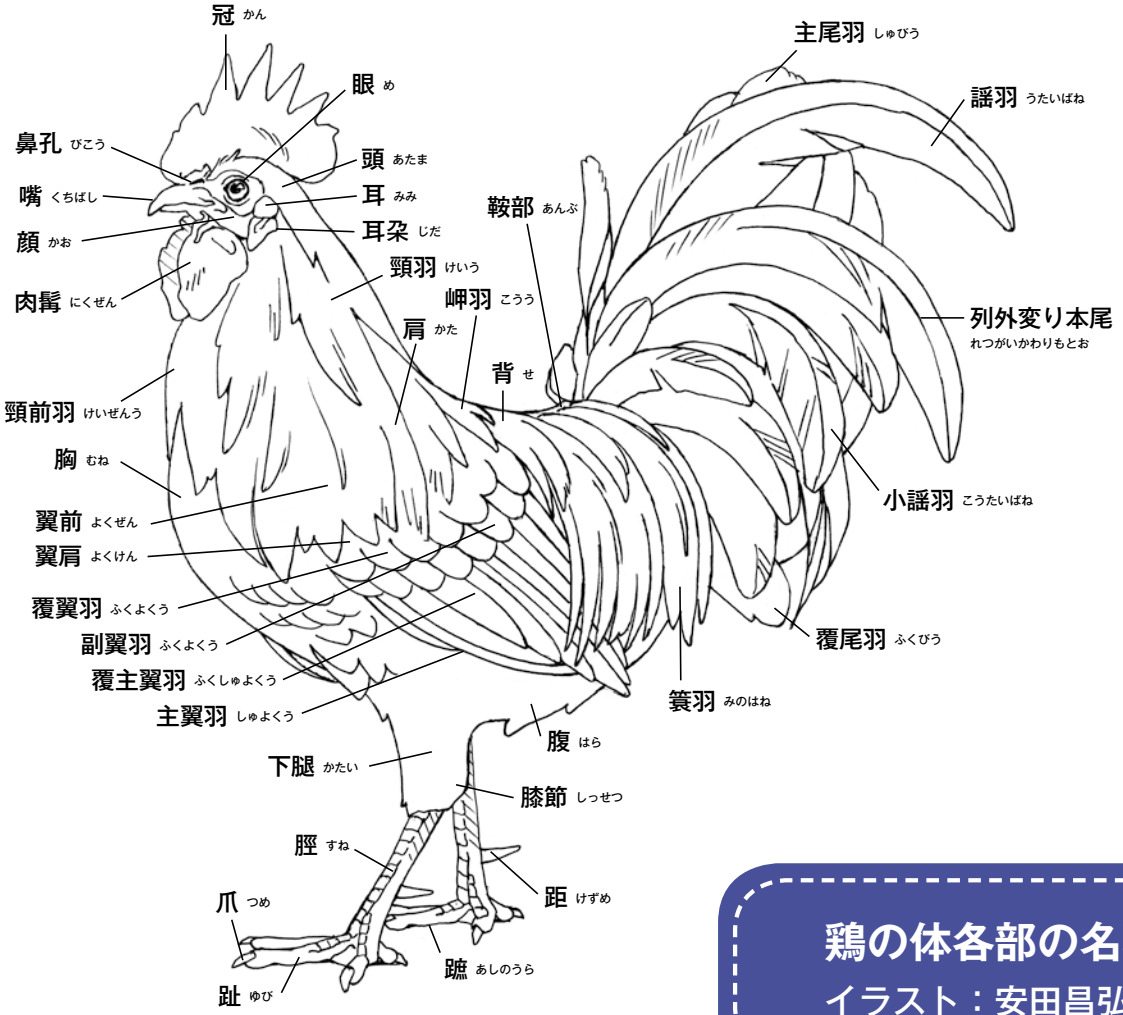
『養鶏ハンドブック』　田先威和夫・山田行雄・森田琢磨・田中克英 編著　養賢堂（1982年）

『欧州家禽図鑑』　秋篠宮文仁、柿澤亮三、マイケル＆ビクトリア・ロバーツ　平凡社（1994年）

『英国家禽標準』　第６版　ビクトリア・ロバーツ編　ブラックウェル（2008年）

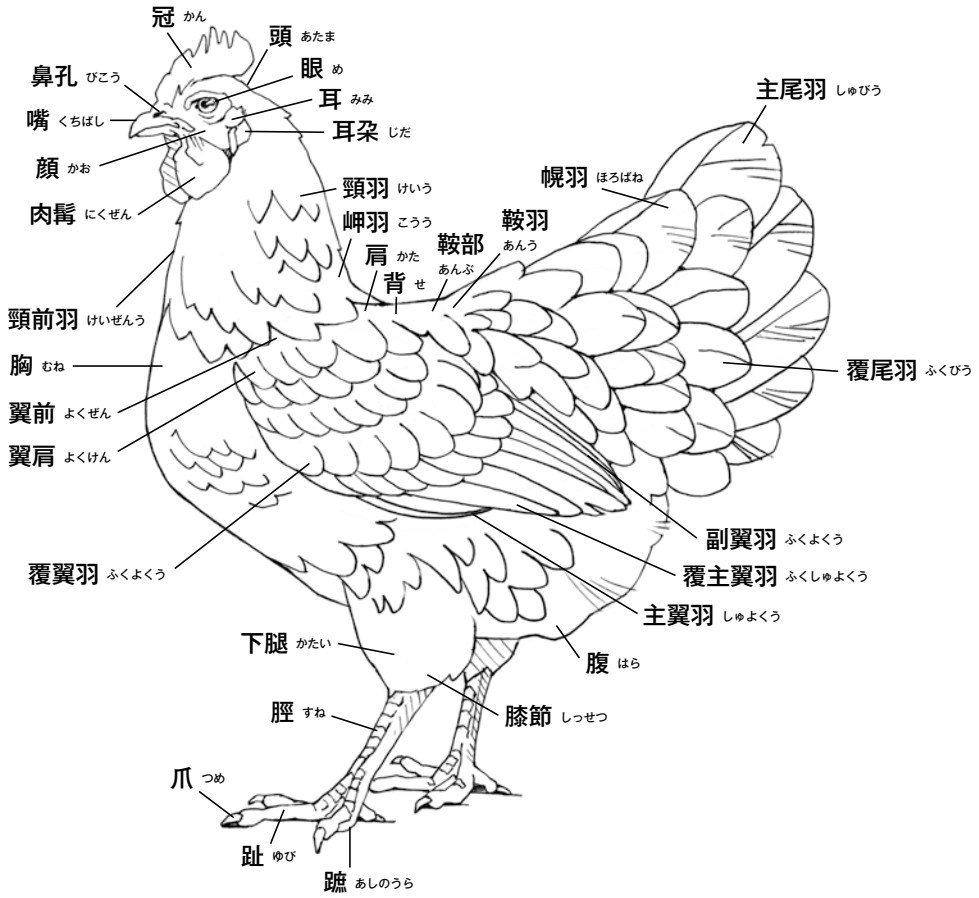
『ニワトリ 人類を変えた大いなる鳥』

アンドリュー・ロウラー 著　熊井ひろ美 訳　合同出版（2016年）



鶏の体各部の名称（図解）

イラスト：安田昌弘



講演会

日　時： 9月16日(土)　13時30分～15時
テーマ： 鶏 ―クラシックブリードの世界―
講　師： 小川　博　　農学部バイオセラピー学科 教授
会　場： 「食と農」の博物館　1階 映像コーナー

Credit

- 企画　小川　博　農学部バイオセラピー学科 教授
- 主催　東京農業大学「食と農」の博物館　館長：江口文陽
  特別展「クラシックブリードの世界」実行委員会
  委 員 長：上岡美保　「食と農」の博物館 副館長
  副委員長：小川　博
  委　　員：黒澤弥悦　安田清孝　西嶋　優　大石康代　村山千尋
  高橋幸水
- 協力　JSAC　安田昌弘

Partridge Cochin

表紙に使用されている写真はCreative commons PHOTO SEARCH in Flickrから"Panorama, farm building" by Monica Arellano-Ongpin ／ july3.2014

東京農業大学「食と農」の博物館

〒158-0098　東京都世田谷区上用賀２－４－８
Tel 03-5477-4033／ Fax 03-3439-6528
http://www.nodai.ac.jp /syokutonou/

開館時間　午前10時～午後５時（４月～11月）
　　午前10時～午後４時30分（12月～３月）
休 館 日　月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)、毎月最終火曜日
　　大学が定めた日　※臨時休業がありますのでご注意ください

平成29年度の特別展・企画展のお知らせ

■特別展「微細藻類の輝かしき未来」―健康・環境・エネルギー資源としての可能性に迫る―
　会期：2017年４月26日(水)～８月６日(日)
■特別展「鶏 ―クラシックブリードの世界―」
　会期：2017年８月30日(水)～10月15日(日)

■企画展　古農具展Ⅱ「農民芸術」―編まれた民具―
　会期：2017年10月25日(水)～2018年３月11日(日)
■企画展　国際食料情報学部４学科合同展―つなぐ―
　会期：2017年10月25日(水)～2018年３月11日(日)

刊行物のお知らせ

■図録『ピーター・メンツェル＆フェイス・ダルージオ　地球の記録20年の軌跡「しあわせのものさし」―持続可能な地球環境をもとめて―』

（内容）人々の営みに様々な問いかけをもちながら、20年にわたり世界中を旅した報道写真家とあるがままの事実を綿密に記録したジャーナリストでありプロデューサーでもあるパートナーとの壮大なプロジェクトを物語る写真展の図録である。

（判型）Ａ４判変型　横型　並製　88頁
（企画・編集）東京農業大学「食と農」の博物館
（装丁・デザイン）木村正幸（デザイン工房エスパス）
（発行）一般社団法人 東京農業大学出版会　平成28（2016）年６月１日
（価格）2,600円＋税

『農の暮らしに生きた女わざ』

（内容）その土地特有の自然と共存しながら長い間祖先から受け継いできた生活文化は、名もなき多くの女たちによって守られてきた。女たちが必死に紡いできた生活文化を、ともすると顧みられることもなく、当然のように捨てられてきたであろうただの「布」たちが語ってくれる。

（判型）Ｂ５判変型　上製　144頁
（企画・編集）東京農業大学「食と農」の博物館
（監修）森田珪子　修紅短期大学名誉教授、「女わざの会」代表
（装丁・デザイン）木村正幸・山本亜希子（デザイン工房エスパス）
（発行）一般社団法人 東京農業大学出版会　平成28（2016）年３月10日
（価格）2,500円＋税

『日本人と馬 ―埒を越える十二の対話―』

（内容）信仰・ 民俗・ 歴史・ 考古・ 社会・ 科学・ 芸術と多分野にわたる識者達による対話が、様々な角度から人と馬の関係を照らし出す。

（判型）Ａ５判　上製　420頁
（企画・製作）東京農業大学「食と農」の博物館、東京農業大学教職・学術情報課程
（編集）設立10周年記念特別企画展示実行委員会と「十二の対話」委員会
（装丁・デザイン）木村正幸（デザイン工房エスパス）
（発行）一般社団法人 東京農業大学出版会　平成27（2015）年３月30日
（価格）4,000円＋税

『樹木の形の不思議』
東京農業大学短期大学部環境緑地学科・特定非営利法人樹木生態研究会　編
一般社団法人 東京農業大学出版会　平成26（2014）年３月20日　発行
Ａ５判　並製　158頁　2,000円＋税

『耕す ―鍬と犂』
東京農業大学「食と農」の博物館　編
一般社団法人 東京農業大学出版会　平成25（2013）年３月30日　発行
Ａ５判　並製　115頁　1,500円＋税

PRINTED WITH SOYINK
2017.8.28.3,000